2022年度
第2四半期決算および通期業績見通し
説明資料

星光PMC株式会社（東証プライム 4963）
2022年8月24日

目次

✧ Ⅰ. 2022年度　第2四半期決算（連結）

✧ Ⅱ. セグメント別動向（製紙用薬品・樹脂・化成品）

✧ Ⅲ. 2022年度　通期業績見通し（連結）

✧ Ⅳ. 中期経営計画「OPEN 2024」およびトピックス

✧ Appendix

Ⅰ.2022年度 第2四半期決算（連結）概況

(百万円)	2021年度 上期実績	2022年度 上期実績	前年同期比 増減	前年同期比 増減率
売上高	14,984	15,938	+954	+6.4%
営業利益	1,503	1,120	▲383	▲25.5%
営業利益率	10.0%	7.0%	-	-
経常利益	1,632	1,745	+113	+6.9%
経常利益率	10.9%	10.9%	-	-
当期純利益*1	1,063	1,306	+243	+22.7%
EBITDA*2	2,085	1,755	▲330	▲15.8%
減価償却費	582	635	+53	+9.1%
設備投資	1,728	1,972	+244	+14.1%
研究開発費 (対売上高比率)	948 (6.3%)	893 (5.6%)	▲55	▲5.8%

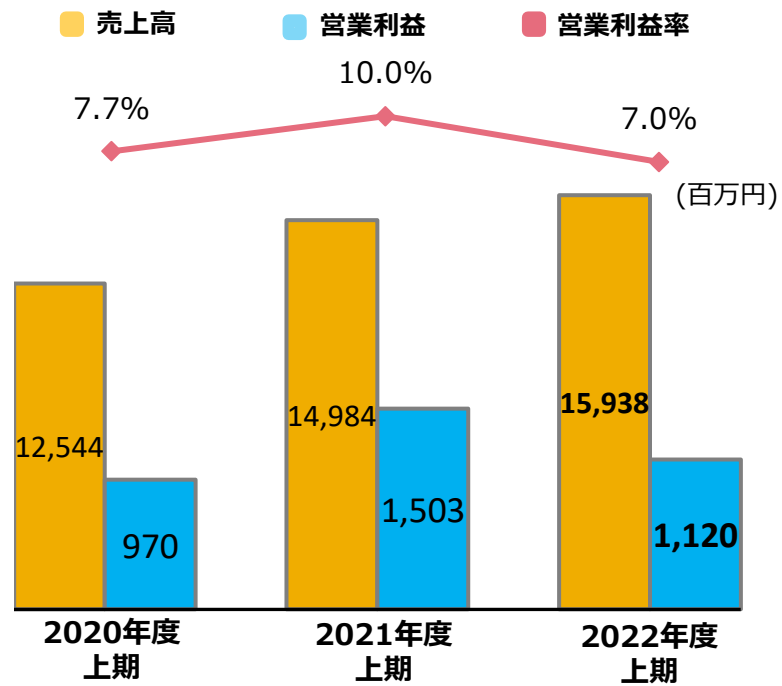
為替 ：2022年上期平均 1ドル＝123円 (2021年上期平均 1ドル＝108円)
ナフサ：2022年上期平均 62,600円/kl (2021年上期平均 35,000円/kl)

*1：親会社株主に帰属する当期純利益
*2：EBITDA ＝ 営業利益 ＋ 減価償却費

売上高 ：製紙用薬品および化成品事業の拡販に加え、原料価格の上昇に伴う製品価格の値上げにより増収

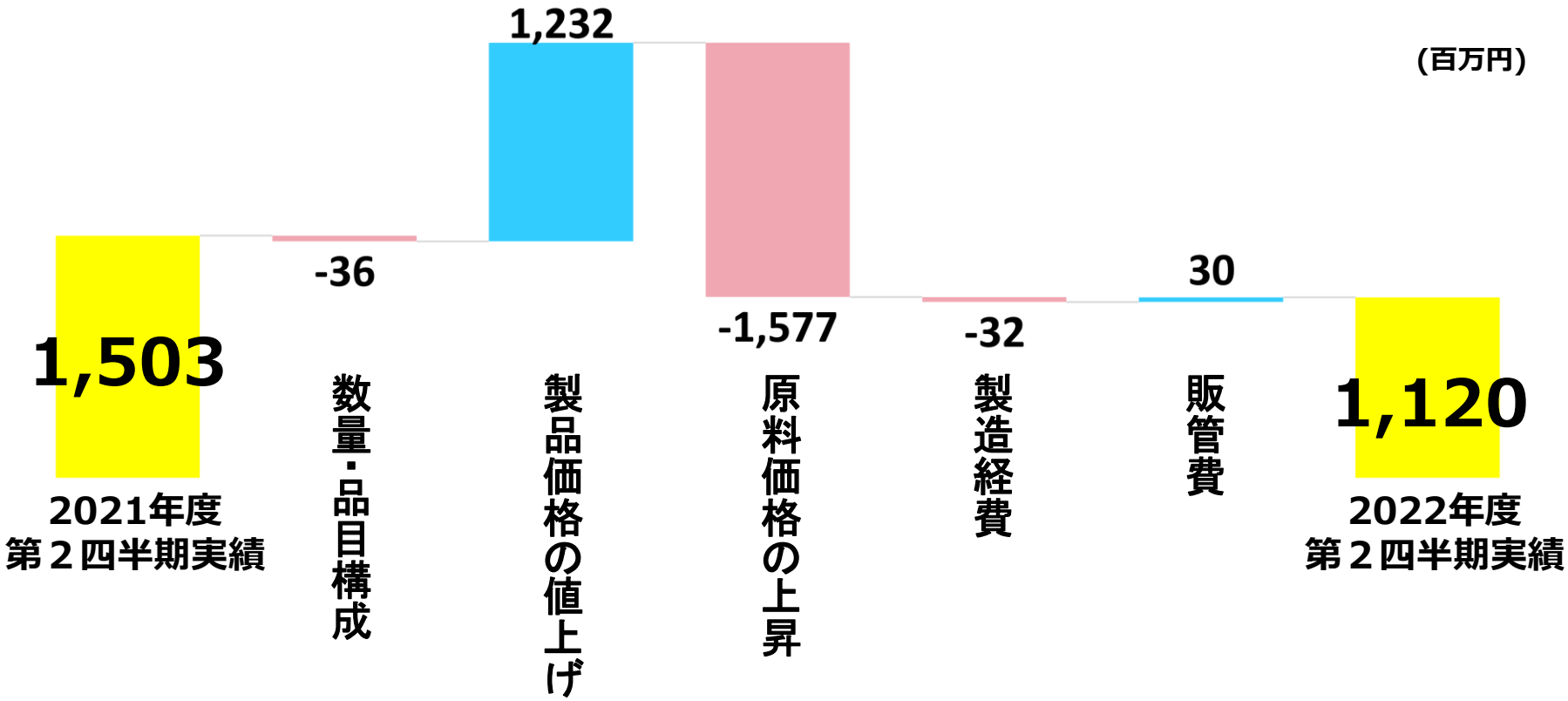
営業利益：原料価格の上昇により、減益

経常利益および純利益：主に海外子会社へのグループ内貸付金に対する為替評価益4.9億円の計上もあり、増益



Ⅰ.2022年度 第2四半期決算（連結）営業利益増減分析

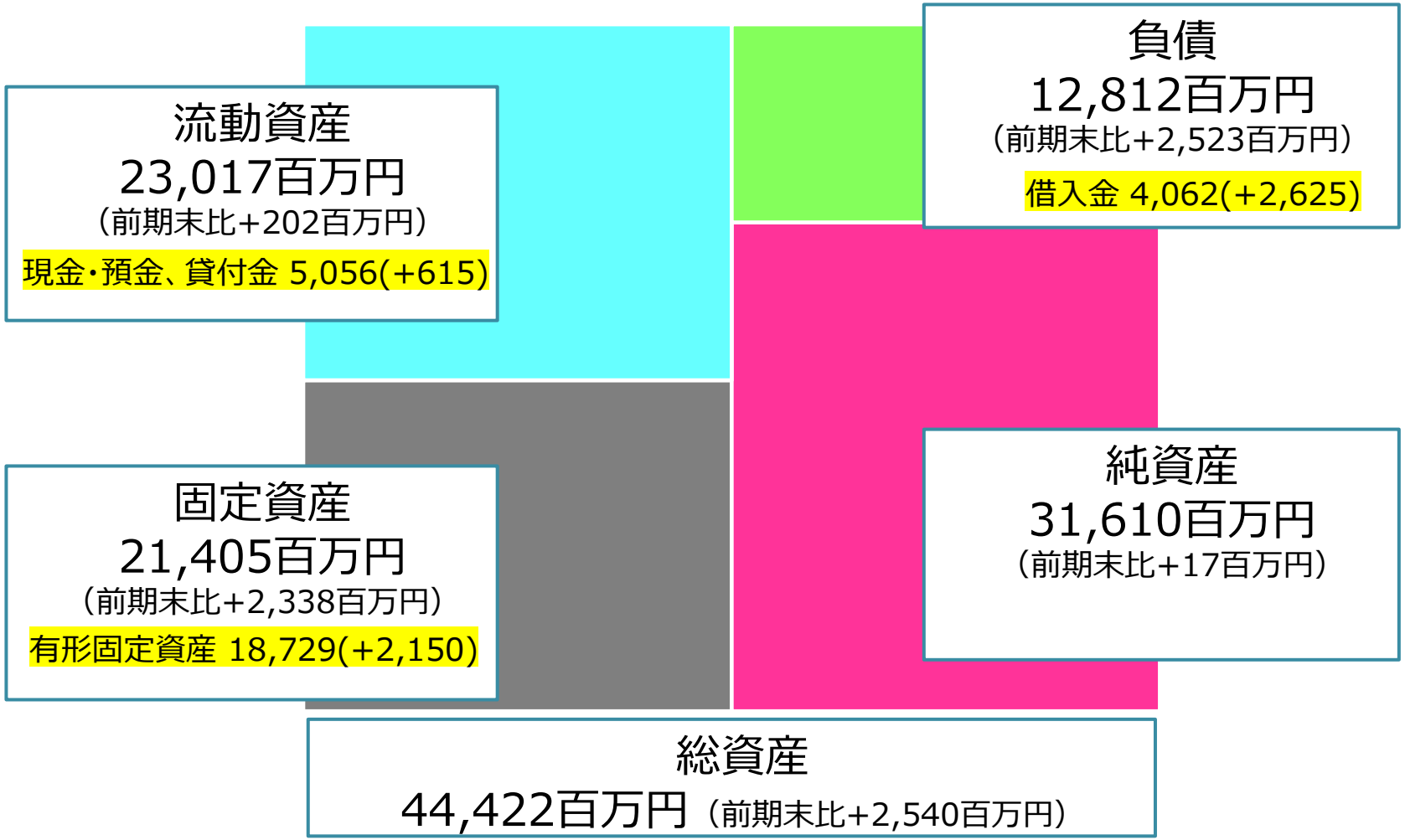
2021年度第2四半期実績 → 2022年度第2四半期実績
1,503百万円 → 1,120百万円（▲383百万円、▲25.5%）



ナフサ価格の上昇に伴う原料価格の値上がりにより減益

Ⅰ.2022年度 第2四半期決算（連結）連結貸借対照表

・国内外の設備投資により、有形固定資産は2,150百万円増加
・借入金が2,625百万円増加したものの、自己資本比率は70.4%と引き続き高水準で推移



Ⅰ.2022年度 第2四半期決算（連結） キャッシュ・フロー

(百万円)		2021年度（1-6月）	2022年度（1-6月）
営業活動によるCF	税金等調整前当期純利益	1,628	1,744
	減価償却費	582	635
	法人税等の支払額	▲339	▲572
	運転資本の増減額(▲は増加)	410	431
	為替差損益（▲は益）	▲84	▲469
	その他	▲232	▲420
	計	**1,965**	**1,349**
投資活動によるCF	有形固定資産の取得による支出	▲1,529	▲1,807
	短期貸付金の純増減額(▲は増加)	403	373
	その他	0	▲34
	計	**▲1,129**	**▲1,468**
財務活動によるCF	配当金の支払額	▲242	▲243
	短期借入金の純増減額（▲は減少）	▲2	2,598
	子会社株式の取得による支出	-	▲1,999
	その他	▲38	▲62
	計	**▲283**	**294**
現金および現金等価物に関わる換算差額		183	813
現金および現金等価物の増減額		735	989
現金および現金等価物の期首残高		2,985	2,762
現金および現金等価物の期末残高		**3,721**	**3,752**

II. セグメント別：製紙用薬品事業

第２四半期実績				
(百万円)	2021年度	2022年度	増減	増減率
売上高	8,419	9,229	+810	+9.6%
営業利益	702	441	▲261	▲37.1%

通期			
2021年度実績	2022年度見通し	増減	増減率
17,556	19,890	+2,334	+13.3%
1,193	975	▲218	▲18.3%

2022年度第２四半期実績

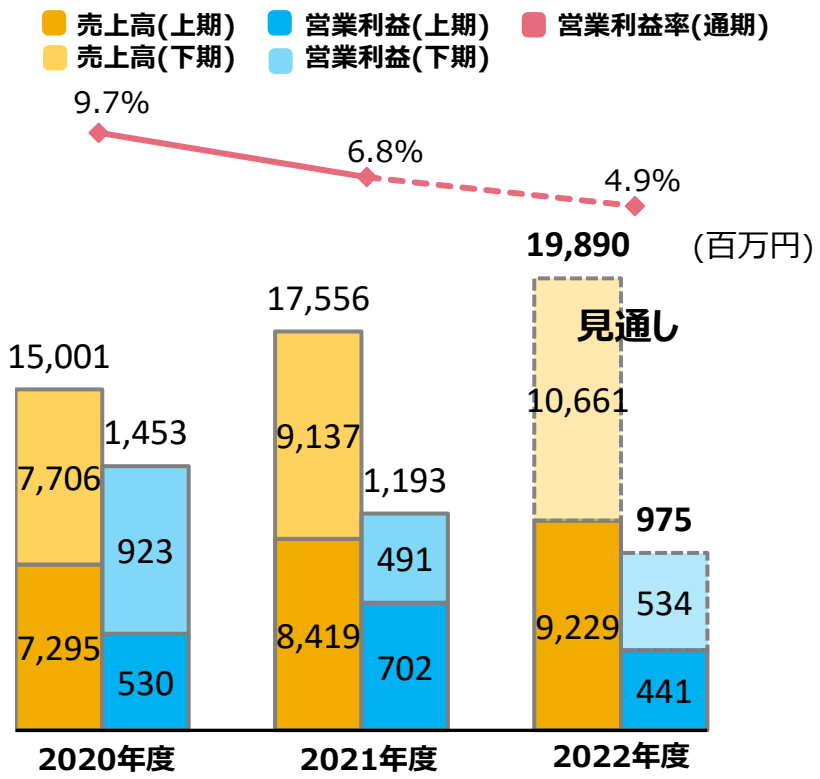
売上高　：段ボール原紙を中心とした堅調な国内需要に対する拡販および、原料価格上昇に伴う製品価格の値上げに努めたことにより、増収

営業利益：原料価格上昇の影響を受け、減益

2022年度通期見通し

売上高　：引き続き国内での拡販に加えて、ベトナム工場稼働による海外での拡販にも注力する。原料価格上昇に応じた製品価格の値上げに努める事により、増収を見込む

営業利益：国内外での拡販により、下期は対前年で増益を見込むが、原料価格の更なる大幅な上昇、成長投資による償却費増もあり、上期の減益をカバーできず、通期では減益を見込む



Ⅱ. セグメント別：樹脂事業

第２四半期実績				
(百万円)	2021年度	2022年度	増減	増減率
売上高	3,980	3,532	▲448	▲11.3%
営業利益	430	179	▲251	▲58.4%

通期			
2021年度実績	2022年度見通し	増減	増減率
8,083	7,190	▲893	▲11.0%
803	414	▲389	▲48.4%

2022年度第２四半期実績

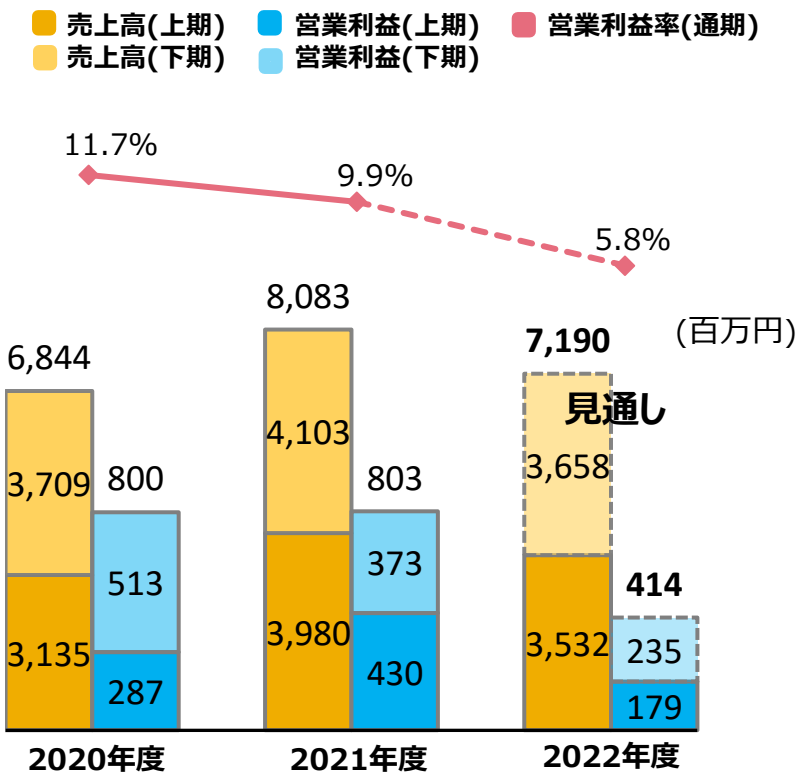
売上高　：原料価格上昇に伴う製品価格の値上げを進めたが、粘着剤（新綜工業）の販売減少が響き、減収

営業利益：販売減少および原料価格の上昇により、減益

2022年度通期見通し

売上高　：下期も、原料価格上昇に伴う製品価格の値上げ等に努めるが、通期では中国等の経済減速の影響を受けた販売減少により、減収を見込む

営業利益：販売減少および、原料価格の上昇により、減益を見込む



Ⅱ. セグメント別：化成品事業

第２四半期実績				
(百万円)	2021年度	2022年度	増減	増減率
売上高	2,584	3,176	+592	+22.9%
営業利益	670	682	+12	+1.9%

通期			
2021年度実績	2022年度見通し	増減	増減率
5,392	5,760	+368	+6.8%
1,312	995	▲317	▲24.2%

2022年度第２四半期実績

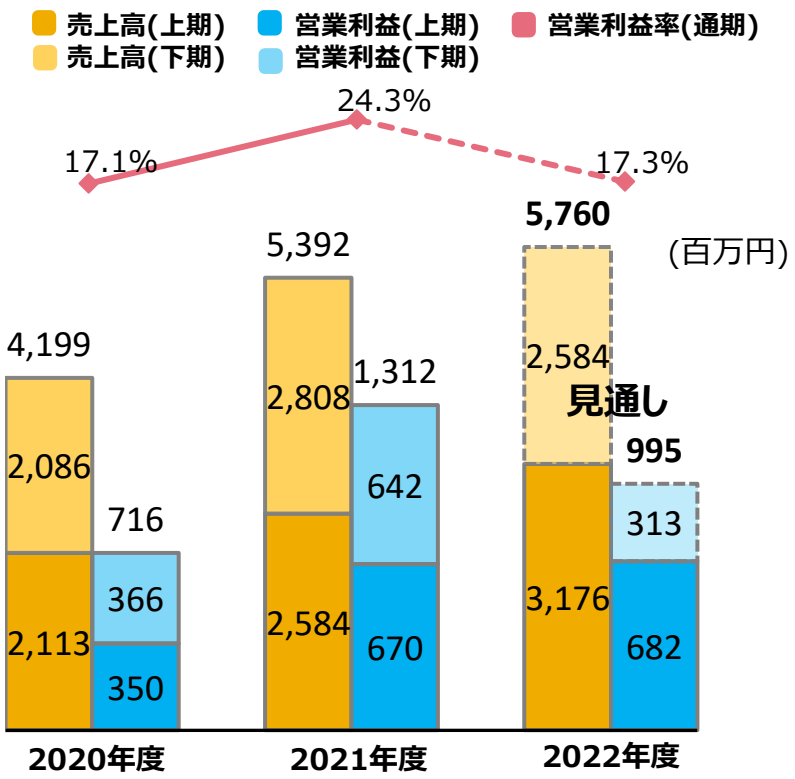
売上高　：機能性モノマーの旺盛な需要に伴う欧米・アジアへの輸出が好調により、増収

営業利益：原燃料費等の上昇も、販売増により増益

2022年度通期見通し

売上高　：下期は欧米・アジアの景気後退の影響を受ける見込みも、通期では増収を見込む

営業利益：下期は販売の減少や、原料費の上昇、償却費の増加もあり、通期では減益を見込むが、利益率は引き続き高い水準を維持



Ⅲ.2022年度 通期業績見通し（連結）

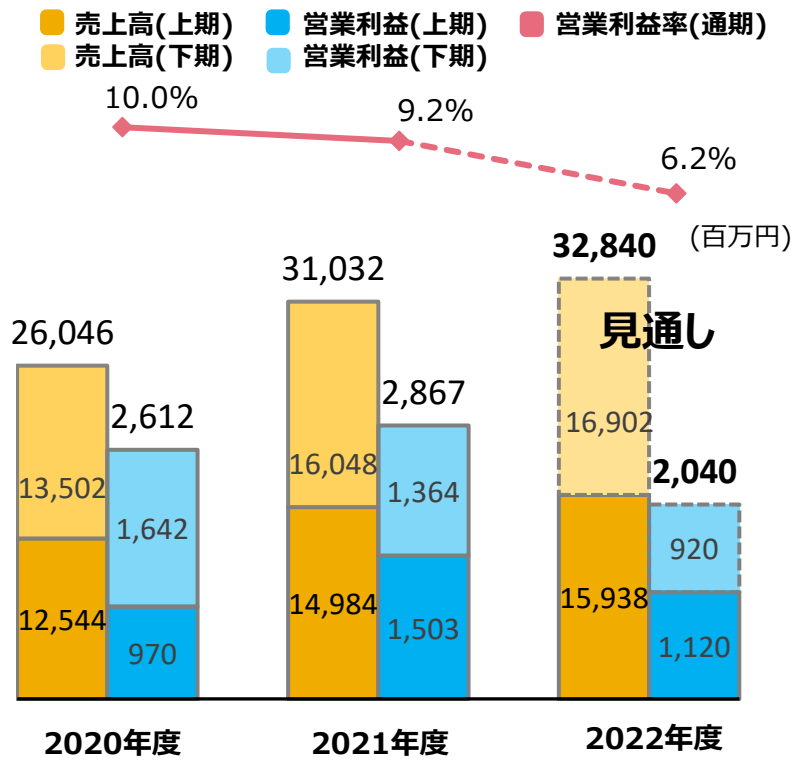
（百万円）	2021年度	2022年度		
	実績	見通し*1	増減	増減率
売上高	31,032	32,840	+1,808	+5.8%
営業利益	2,867	2,040	▲827	▲28.9%
営業利益率	9.2%	6.2%	-	-
経常利益	3,139	2,690	▲449	▲14.3%
経常利益率	10.1%	8.2%	-	-
当期純利益*2	2,082	1,970	▲112	▲5.4%
EBITDA*3	4,159	3,523	▲636	▲15.3%
減価償却費	1,292	1,483	+191	+14.8%
設備投資	2,885	3,075	+190	+6.6%
研究開発費 （対売上高比率）	1,838 (5.9%)	1,752 (5.3%)	▲86	▲4.7%

為替 ：2022年通期見通し 1ドル＝129円(期初想定 114円)、 2021年平均 110円
ナフサ：2022年通期見通し 73,100円/kl(期初想定 61,000円/kl)、2021年平均 42,800円/kl

*1：2022年8月9日に開示した最新見通しを記載しております
*2：親会社株主に帰属する当期純利益
*3：EBITDA ＝ 営業利益 ＋ 減価償却費

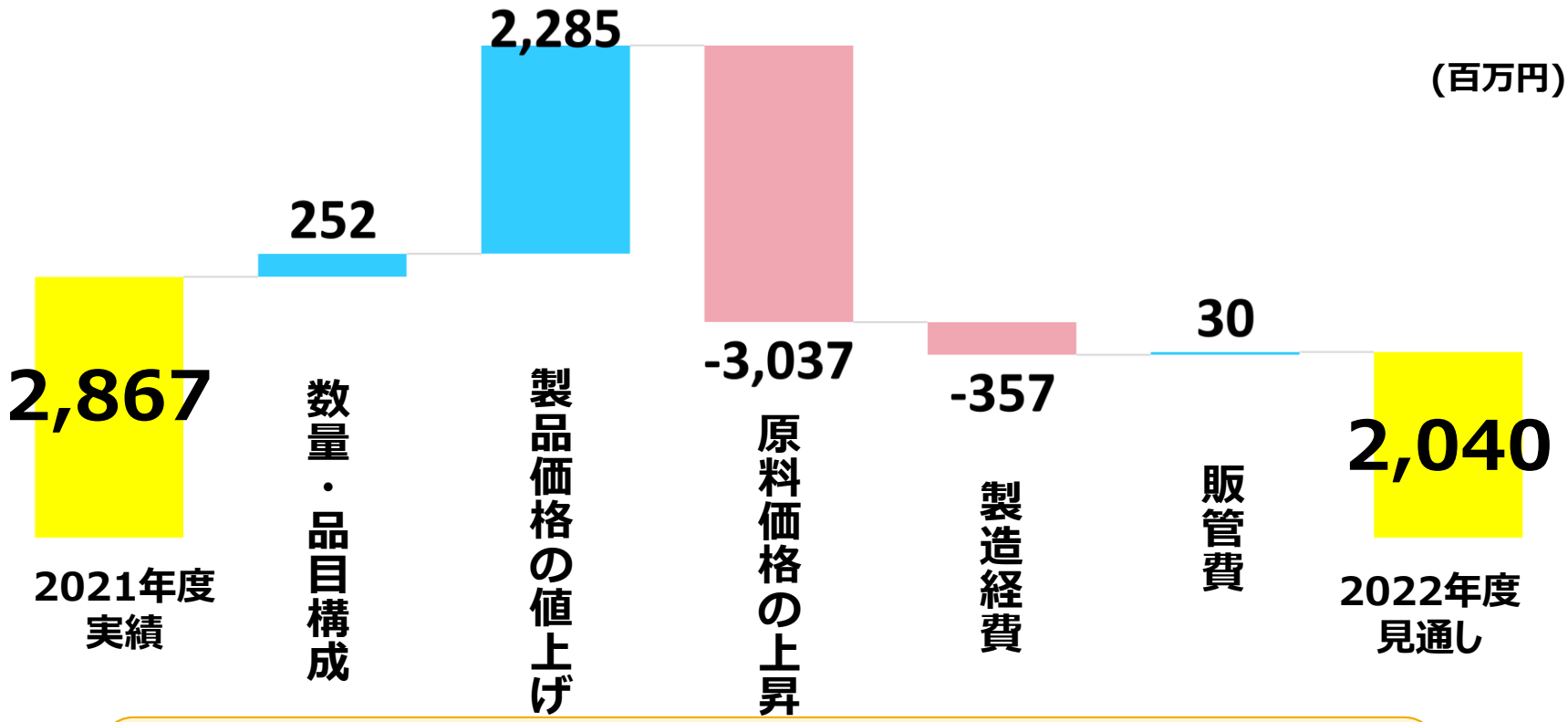
売上高 ：新規拡販および、原料価格上昇に伴う製品価格の値上げに努め、増収見込み

営業利益：想定を超える原料価格の上昇および、設備投資に伴う償却費増により減益を見込むが、値上げや拡販等で吸収し、前回見通しは据え置き



Ⅲ.2022年度 通期業績見通し（連結） 営業利益増減分析

2021年度実績 → 2022年度見通し
2,867百万円 → 2,040百万円 (▲827百万円、▲28.9%)

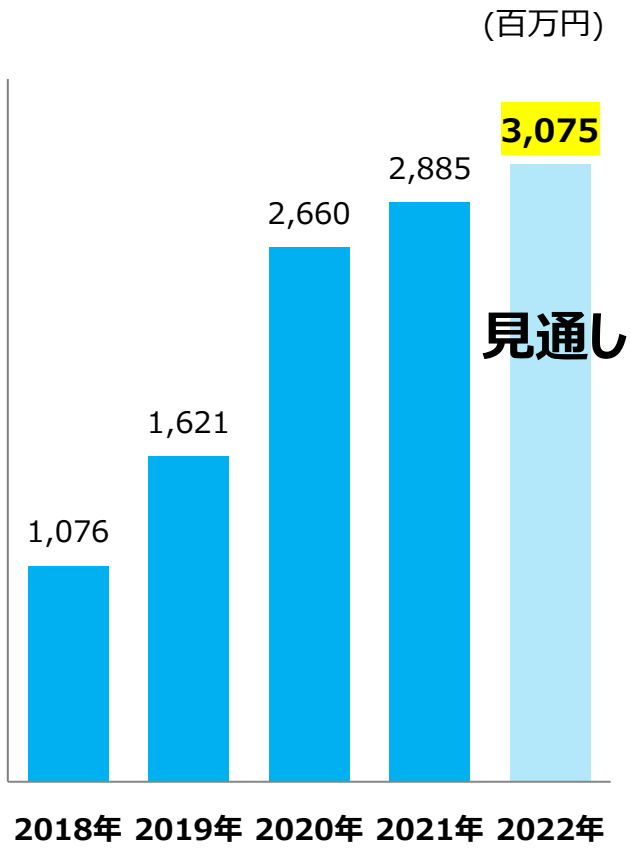


原料価格の上昇に加え、資源価格上昇によるユーティリティ費用および、成長に向けた国内外の設備投資に伴う減価償却費の増加により、減益

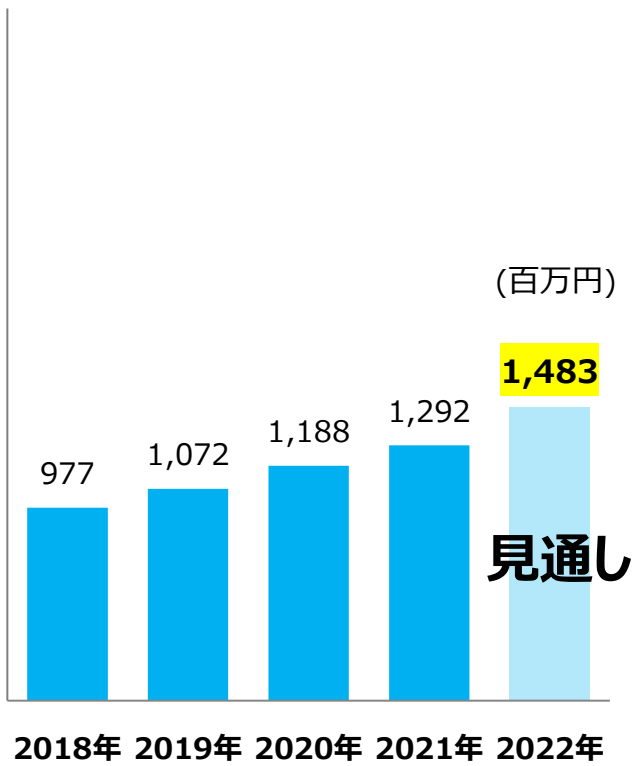
Ⅲ. 2022年度 通期見通し 設備投資および研究開発費

- 設備投資額は、ベトナム工場の投資を中心に国内外で３０億円強を計画
- 減価償却費として１５億円弱を見込み、研究開発費は１８億円弱を投じる

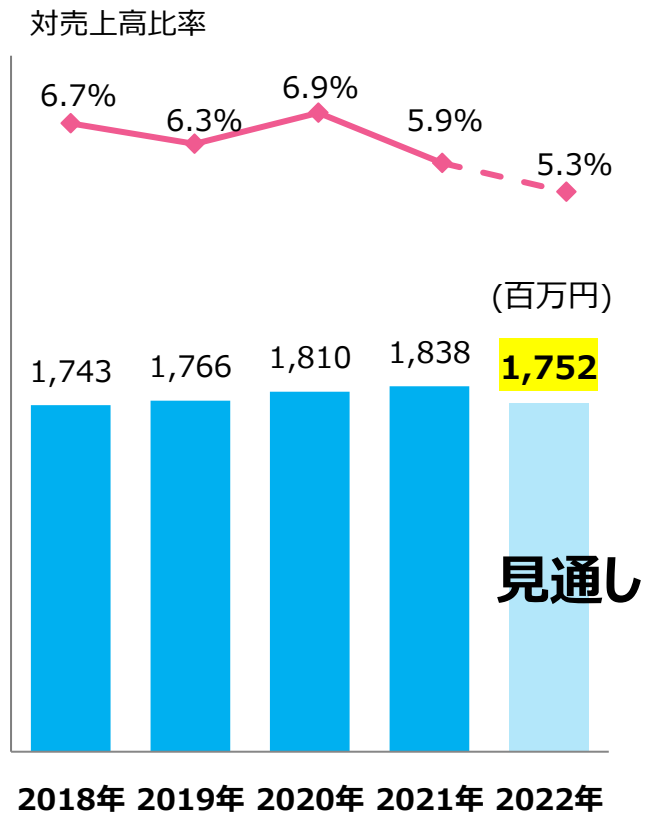
設備投資額



減価償却費



研究開発費



Ⅳ. 中期経営計画「OPEN 2024」基本方針

VISION 2030

エコテクノロジーで持続可能な社会の実現に貢献するグローバル企業となる

バックキャスティングにて策定

OPEN 2024(*) Change

～VISION 2030達成に向けた土台作りのための変革と挑戦～

基本方針

ポートフォリオ変革

- **海外（特に東南アジア）への積極展開**
  新体制による展開加速で
  海外売上高比率40%以上へ
- **新事業の足場固め**
  ＣＮＦ、銀ﾅﾉﾜｲﾔ、その他開発品の事業化進展
- **国内事業基盤の強化**
  製品ポートフォリオ変革、生産体制再構築

ＥＳＧ経営の推進

- **ＧＨＧ排出量削減計画の実施：**
  エネルギー基盤強化
- **ｻｽﾃﾅﾋﾞﾘﾃｨ委員会の設置と運営**
- **New Green Index：130以上**

- **人財育成・組織づくり**
- **ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）**

(*) 基本方針として力を入れていく、海外(**O**verseas)、ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ変革(**P**ortfolio)、**E**SG経営、新事業(**N**ew business) の頭文字。**Open** Innovation, **Open** Mindの思いも込めて命名

Ⅳ.「OPEN 2024」：海外への積極展開

SEIKO PMC VIETNAM（製紙用薬品事業）

生産能力３万トン/年の新設工場が、このほど完成しました。
現在、許認可取得の最終段階にあり、9月生産開始の予定です。

既存各工場（日・中）と有機的に連携し、東南アジア市場における製紙用薬品の需要拡大に応えてまいります

Ⅳ.「OPEN 2024」：注力する環境戦略製品

CNF配合樹脂　STARCEL®

☆豊富な植物由来原料の活用
部材軽量化でｴﾈﾙｷﾞｰ低減に貢献

提供：環境省

提供：
㈱ｱｼｯｸｽ様

脱ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ(紙化)を可能にする SEIKOAT®

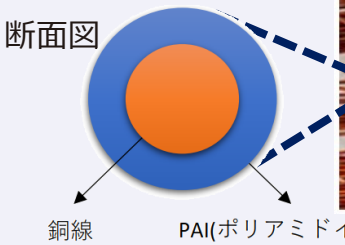
☆ FDA適合、高ﾊﾞｲｵﾏｽ、生分解性の水性ｴﾏﾙｼｮﾝ
（耐水・耐油性、低温ﾋｰﾄｼｰﾙ性）

バイオフィルムコントロール剤

☆ ﾊﾞｲｵﾌｨﾙﾑによる濾過膜の閉塞を防止
することでｴﾈﾙｷﾞｰ低減に貢献

機能性溶剤Kohshylvent® KJCMPA®-100

☆ 低毒性（ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝや銅線被覆用PAI等耐熱塗料の
合成溶剤等に使用されるN-ﾒﾁﾙﾋﾟﾛﾘﾄﾞﾝを代替）

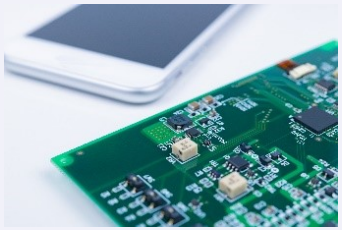


銀ナノワイヤインク　STARCON®

☆真空設備不要で生産性が高く、
再生可能ｴﾈﾙｷﾞｰの普及に貢献

UV硬化型粘着剤

☆ ｽﾏｰﾄﾌｫﾝ・車・半導体等製造時の低VOC化に貢献



Ⅳ.「OPEN 2024」：環境戦略製品トピックス①

セルロースナノファイバー（CNF）

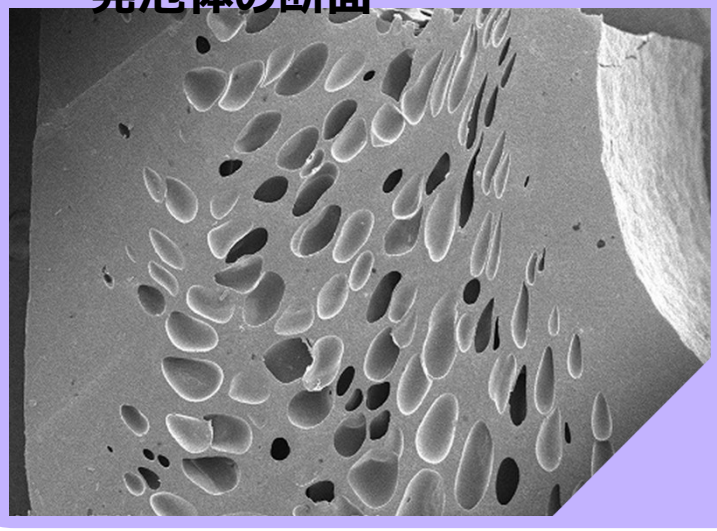
ＮＥＤＯ助成事業「炭素循環社会に貢献するセルロースナノファイバー関連技術開発」に参画して製造プロセスの改良を進めており、物性を維持しながら生産性を現在の3倍以上に高められる見通しが得られております。

発泡成形体への活用を多様な企業様と共同開発
例）PP材料を発泡させた自動車用ドアトリム

（永和化成工業様ご提供）

発泡体にすることで樹脂の使用量が減り、自動車等の軽量化に貢献

発泡体の断面



Ⅳ.「OPEN 2024」：環境戦略製品トピックス②

バイオフィルムコントロール剤

当社のバイオフィルムコントロール剤は、従来技術（殺菌剤によるバイオフィルム*防止）の問題点だった安全性、装置／機器の劣化などを解決した、最先端技術を応用したバイオフィルム防止効果を有する製品です。

*バイオフィルム：
細菌が部材表面に形成する粘性莢（きょう）膜の事であり、流路の閉塞や細菌汚染を引き起こす原因物質。

「水」に関わる様々な用途、例えば、造水膜、冷却塔や、各種機器の洗浄剤など、幅広い用途において実績化を目指しております。

Ⅳ.「OPEN 2024」：環境戦略製品トピックス③

脱プラスチック（紙化）を可能にする「SEIKOAT®」

耐油性付与コート剤（非フッ素系）

SEIKOAT® T-EF201

紙の通気性を高く維持しながら耐油性を付与することができる非フッ素系紙用耐油コート剤

特徴

- 非フッ素系で食用油に対する高い耐油性
- フッ素系耐油剤に匹敵する高い通気性
- バイオマス素材の割合が95%以上
- 生分解性

耐 食用油

※T-EF201塗工紙にサラダ油を滴下
24時間以上紙への浸透は見られない

健康や環境への懸念がある有機フッ素化合物を使用しない新しい耐油紙の実現

Ⅳ.「OPEN 2024」：環境戦略製品トピックス④

UV硬化型粘着剤

特徴

・溶剤不使用
　→　有効成分100%のため無駄がなく、環境にやさしい

・溶剤を揮発させる熱乾燥工程を必要としないため省エネルギー

・高い透明性が求められる用途にも対応

従来品より5倍の硬化速度となる改良品の開発に成功し、お客様の生産性向上へ貢献。

さまざまな用途で使用される粘着剤

光学用途に留まらず、振動吸収性・耐候性・素材収縮への追従性などの性能要求を有し、より生産性が重要視される用途へも展開。

Ⅳ.「OPEN 2024」：ＥＳＧ経営の推進

ＧＨＧ削減

・目標
　2030年：2013年比GHG50%削減
　2050年：カーボンニュートラル

・推進状況
設備や反応工程の省エネ化などの「エネルギー基盤強化」を実施すると共に、太陽光発電設備の設置やグリーン電力の購入を開始し、GHG削減への取組みを進めています。

当社水島工場に設置した太陽光発電設備

ＴＣＦＤ

TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言への賛同を表明し、気候変動問題をはじめとする様々な環境・社会課題の解決に向けた取組みや情報発信を充実してまいります。

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

地方創生SDGs

当社は地方創生SDGsにも積極的に取組むため、各地域の制度に賛同しています。

・ちばSDGsパートナー登録制度
　（千葉工場、千葉研究所、市原研究所）
・倉敷市・高梁川流域SDGsパートナー制度
　（水島工場）
・あかしSDGsパートナーズ　（明石研究所等）

Ⅳ.「OPEN 2024」：ステークホルダーへの情報発信

社外報

当社をより身近に感じていただくため、社外報「SEIKO PMC Plus」の定期発行を始めました。

SEIKO PMC Plus

Vol.1

トップメッセージ

初めまして。3月25日に星光PMCの社長に就任いたしました菅（かん）と申します。私は、12年前の2010年10月に金融業界から転じて当社に入社して以降、当社グループの事業領域拡大に尽力してきました。

就任初年度の今年は、新しい中期経営計画OPEN 2024のスタートの年です。昨年来の原料価格の値上がりや新型コロナウイルス感染症の帰趨など、事業環境の先行きは不透明ですが、今期の業績目標達成のための施策と併せて、中長期的な視点での成長へ向けた戦略にも取組んでまいります。

代表取締役社長執行役員　菅 正道

市場環境の変化に加え、最近は企業の社会的責任の果たし方に関する事業運営のルールも変わりつつあります。だからこそ、その変化に成長の機会を生み出せるように社員一丸となって頑張りますので、引き続きどうぞ宜しくお願いいたします。

このたび、ステークホルダーの皆様に、当社のことをより身近に感じていただくため、「SEIKO PMC Plus」を発信することといたしました。業績概況の他に、サステナビリティへの取組みなど、最近のトピックスについても紹介していきますので、ご覧いただければ幸いです。

Twitter

当社の情報発信をより把握し易くするため、Twitter公式アカウントを開設しましたので、フォローしていただけますと幸いです。

決算説明会の書き起こし公開

広範な投資家の方への情報発信充実のため、証券アナリスト・機関投資家向け決算説明会の全文書き起こしを公開するべく、ログミー（株）が提供する「ログミーファイナンス」サービスの活用を開始いたします。

当社へのご質問等は

e-mail：ir@seikopmc.co.jp

TEL ：03-6202-7331

までお問い合わせください。

＜予想に関する注意事項＞
・本資料では情報の提供を目的としており、勧誘行為を行うものではございません。
・業績見通しは現時点で入手可能な情報に基づき、当社の経営者が判断した見通しでございますが、実際の売上高および利益は、記載している予想数値とは異なる場合がありますことをご承知おき下さい。
・当社は業績見通しの正確性・完全性に関する責任を負うものではございません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。
・本資料に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負うものではございません。

Appendix

✧事業内容

✧当期の事業環境

✧ROE・株主還元

Appendix-Ⅰ.事業内容

➢ 製紙用薬品事業

紙力増強剤
サイズ剤
家庭紙用薬品
製紙用補助薬品

<主な用途>
紙　新聞用紙、印刷・情報用紙
　　家庭紙 他
板紙　段ボール原紙
　　紙器用紙 他

➢ 樹脂事業

各種印刷インキ用樹脂
記録材料用樹脂
粘着剤(新綜工業)
CNF(ｾﾙﾛｰｽﾅﾉﾌｧｲﾊﾞｰ)

<主な用途>
フレキソ・グラビア・オフセットインキ 他
LBPプリンター用トナー 他
工業用両面テープ 他
ランニングシューズ他

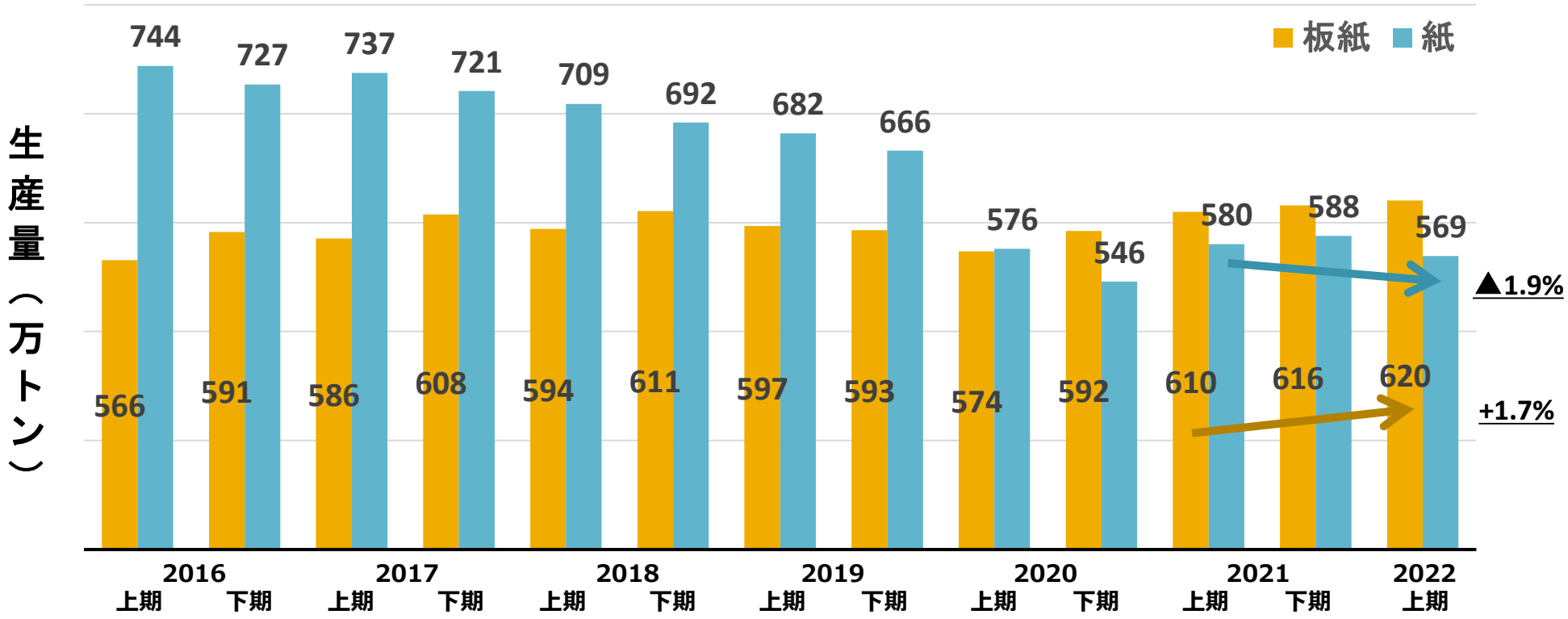
➢ 化成品事業(KJケミカルズ株式会社)

各種機能性モノマー 他

<主な用途>
UVコート剤・インキ、水系塗料、
製紙用薬品、粘・接着剤、
石油掘削用ポリマー、化粧品、電子材料 他

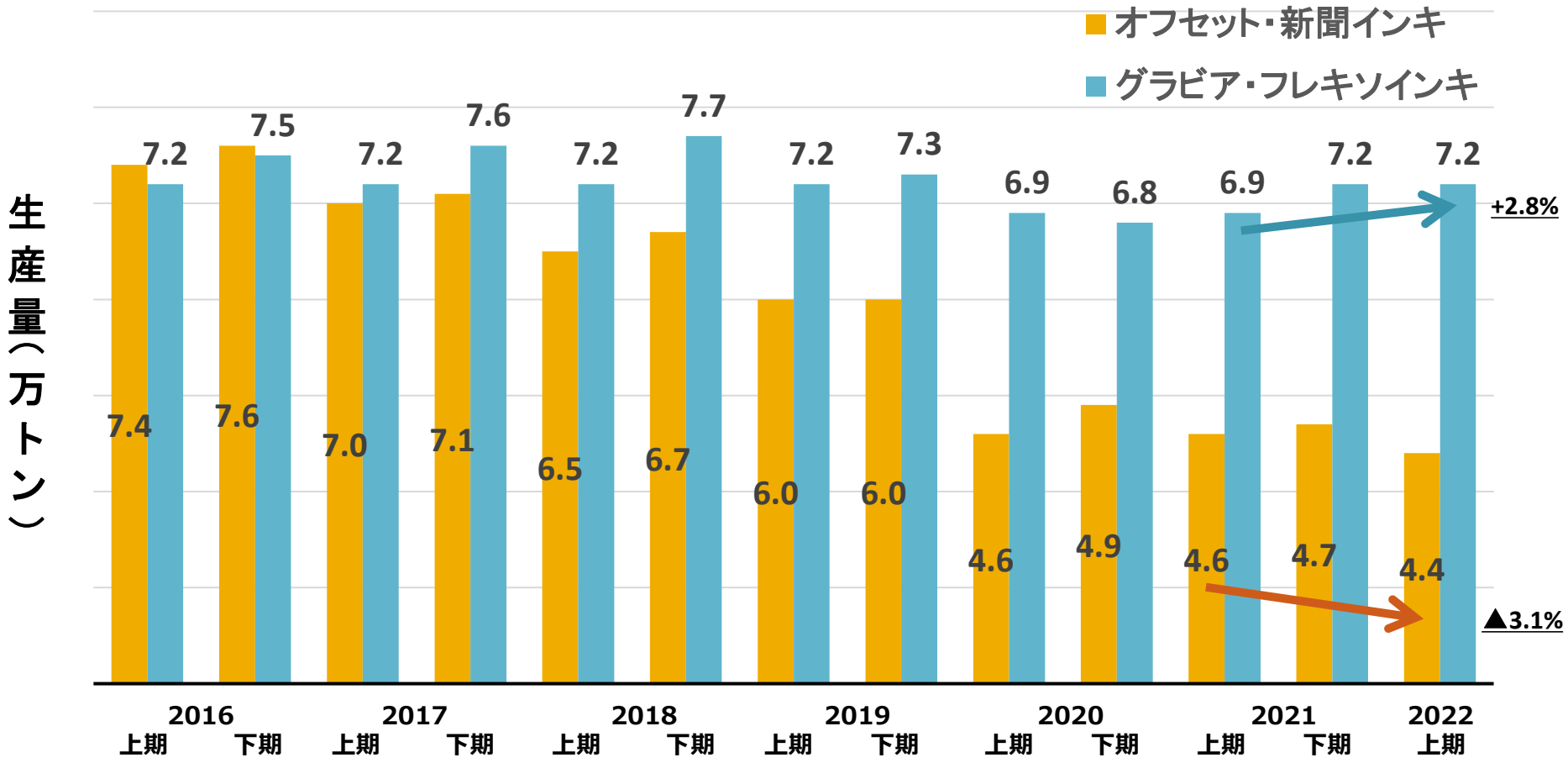
Appendix－Ⅱ.当期の事業環境（国内紙・板紙生産量）

・2022年上期の国内紙・板紙生産量は1,190万トン(前年同期比0.0%)と横ばいも、紙種によって状況が異なり、紙生産量は569万トン(前年同期比▲1.9%)、板紙生産量は620万トン(前年同期比+1.7%)
・板紙は、段ボール需要を背景に、堅調な推移であった



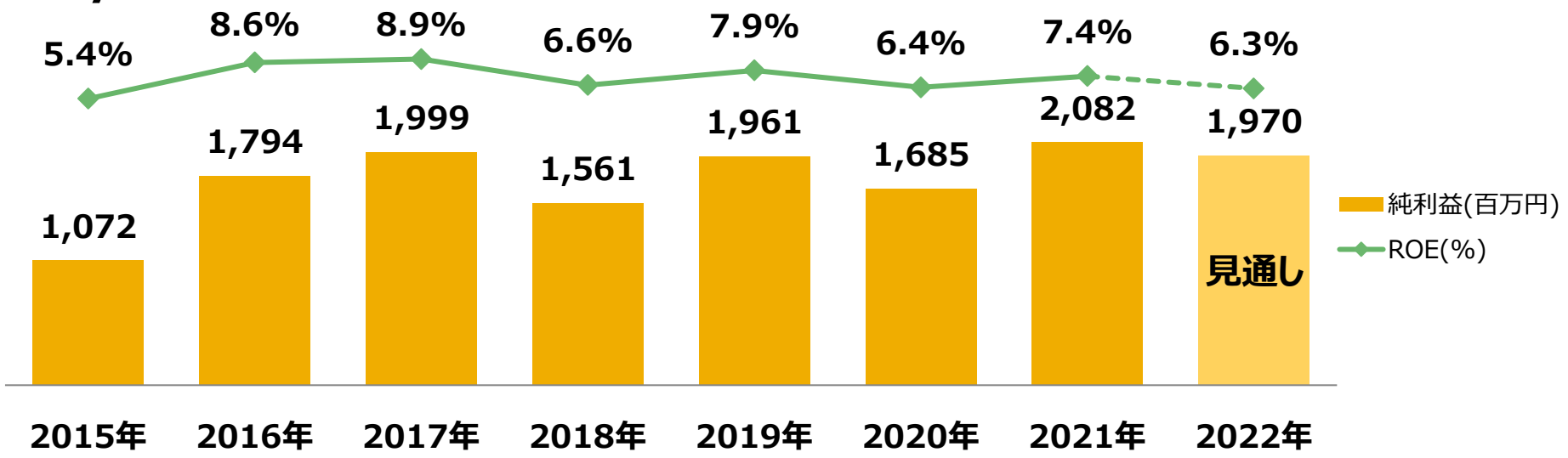
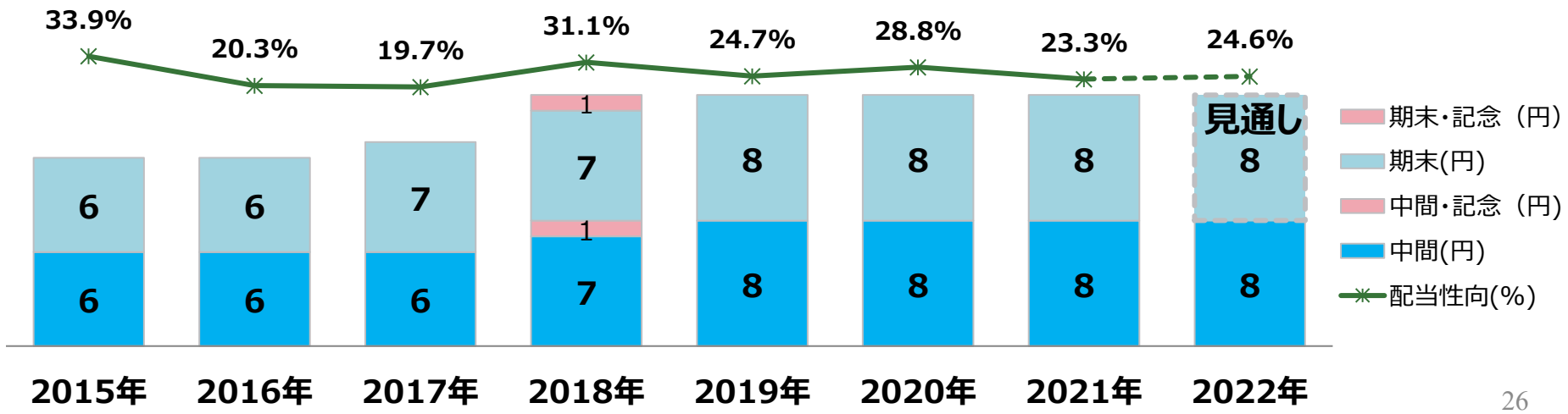
Appendix－Ⅲ.当期の事業環境（国内印刷インキ生産量）

2022年上期の国内オフセット・新聞インキ生産量は4.4万トン(前年同期比▲3.1%)と
デジタル化の普及により、引き続き減少傾向
グラビア・フレキソインキ生産量は7.2万トン（前年同期比+2.8%）と包装材料向けが堅調であり、
需要回復傾向



Appendix-Ⅳ. ROE・純利益・株主還元

ROE/純利益



株主還元